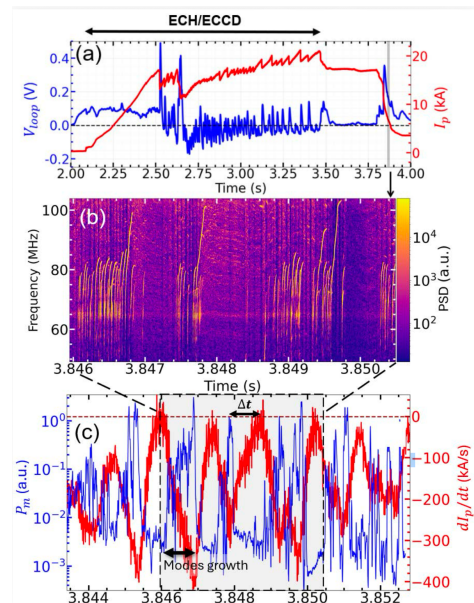


プラズマ・核融合学会誌

第102巻第3号

2026年3月

解 説	プラズマアクチュエータ研究の進展 -実験とシミュレーション-	西田 浩之, 畑本明彩未, 金子 泰	87
小 特 集	微粒子プラズマ研究における最近の動向		
	1. はじめに	古川 武留	95
	2. 微粒子プラズマ研究の変遷	石原 修	97
	3. 微粒子プラズマの基礎物理研究の動向	東辻 浩夫, 高橋 和生, 齋藤 和史	101
	4. プラズマ応用分野における微粒子プラズマの動向	古閑 一憲, 鎌滝 普礼, 白谷 正治	109
	5. まとめ	石原 修	114
講 座	ニューラルネットワークを用いた物理モデリング・シミュレーション		
	3. ニューラル作用素学習	田中 佑典	118
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト			125
インフォメーション			126
	ITER だより (116)		
本 会 記 事			132
	第16回核融合エネルギー連合講演会 一般講演の募集		
	令和8年度第24回高校生シンポジウム実習受入研究室募集ご協力をお願い		
	【こちら編集委員会です】3月号付録カレンダーについて		
編 集 後 記			



表紙の絵

ディスラプション時に問題となる逃走電子ビームの成長は、高周波モード励起により抑制される可能性が指摘されてきた。本研究では、球状トカマク QUEST において、高周波モード励起がプラズマ電流というグローバル量に直接影響を与える様子を明瞭に観測し、波動・粒子相互作用の重要性を実証した。

(Thomas K. CLOAREC *et al.*, Plasma and Fusion Research, Vol. 21, 1202010 (2026) <https://www.jspf.or.jp/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が公益社団法人日本複製権センター (社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体) と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません (社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052東京都港区赤坂9-6-41乃木坂ビル 2F

複写以外の許諾 (著作物の引用、転載、翻訳等) に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。